

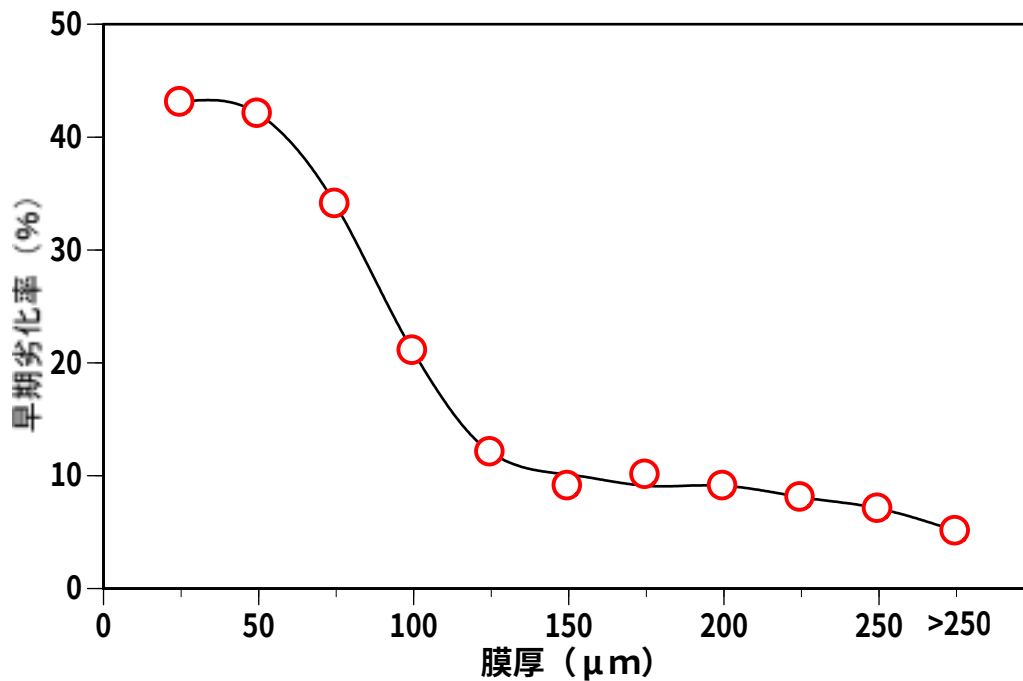
***** 塗膜厚と早期劣化率の関係について *****

1. まえがき

塗装を施すことにより被塗物を種々の劣化から守ることができる。しかし、塗膜厚が薄ければ本来の塗膜性能を十分に発揮できず劣化の原因となる。そこで、劣化防止には塗膜厚が重要な役割をになうことになる。

2. 塗膜厚と早期劣化率の関係

塗膜厚と早期劣化率の関係（表－１）



表－１は、膜厚と劣化率の関係を示したもので75～125 μmの間で急激に改善され、125 μmで大体最高値に近くなっている。すなわち、防食塗装では乾燥後の膜厚が約125 μm以上であることがわかる。

3. アンカーパターンと最低必要膜厚

表一の試験は、鋼材は平滑なものを使用しておりアンカーパターンのある物は、アンカーパターン層+125 μm が最低必要な膜厚となる。これは、アンカーパターンを無視して125 μm 塗装した場合、(図一1)、イの部分で125 μm 以下となり塗膜性能が発揮できない。これに対してアンカーパターンを考慮して、アンカーパターン厚+125 μm で塗装した場合(図二)は最低膜厚125 μm 以上となるので充分な劣化防止が期待できる。

